

## 織り組織の多様化による織物の開発研究

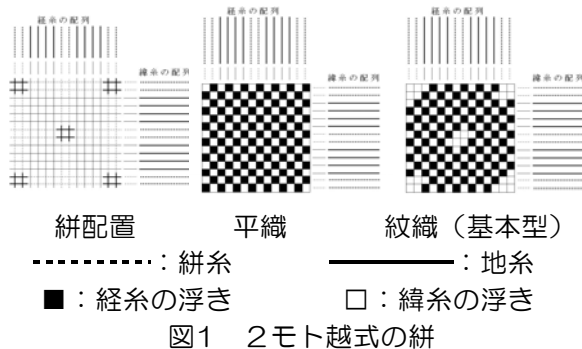
大島紬部

### 1 はじめに

大島紬は精巧で緻密な点絨で図柄の複雑な模様を表現している平織の絨織物で、絨の模様は大島紬独自の絨使い（絨糸と地糸の配列による絨配置）をベースに描かれています。

そこで本研究では、大島紬の織り組織に検討を加え、新たな絨表現として平織から絨織へ展開し、従来の平坦な平織に立体感などの外観的な変化を持たせた新しい織物の開発研究を行いました。

今回、大島紬の2モト越式（絨糸2本、地糸4本）の絨を基に対応する織り組織と絨絨（絨と織り組織の組み合わせ）について、検討を行いました。（図1）



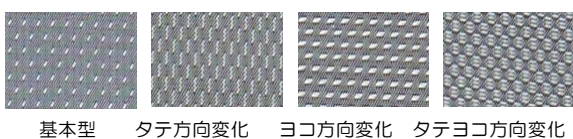
## 2 概要

### (1) 織り組織の展開試験

織り組織は、大島紬の絨糸と地糸の配列で、経絨糸と緯絨糸が交差する位置の織り組織を平織から変化させ浮き出す形の絨組織にして基本型組織としました。織り組織展開試験は、基本型組織を基に絨部の組織をタテ方向、ヨコ方向、タテヨコ方向について変化を与えて組織の展開を行いました。結果、織り組織のパターンを52種類展開できました。

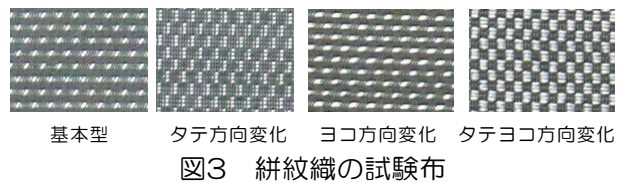
### (2) 試織試験

展開した織り組織について試織試験を行いました。結果として、織物は平織より絨部が浮き出しふっくらとした無地絨織の試験布が得られ、新しい織物展開を行うためのベース組織として活用が可能になりました。（図2）



### (3) 絨絨試験

絨と展開した織り組織を組み合わせ絨絨の検討を行いました。結果、絨と絨組織の絨部が組み合わさって一体となり、絨部分が地組織より浮き出し、絨に立体感がある絨絨試験布が得られるとともに、絨表現を平織から絨織へ展開し、絨表現を広げることができました。（図3）



### (4) 試作

試作品提案として、ネクタイの試作を行いました。（図4）



## 3 おわりに

各織物の製法と試織見本を織物見本帳（無地絨織編、絨絨織編）や色見本帳（糸・織布組織一覧編、糸・織布染料濃度一覧編）にまとめデータ・ベース化を図ったことにより、新規織物開発や織り技術支援に活用されています。（図5、図6）

